

第二十六回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪 (東海道藤沢宿其の二)

第26回平成19年11月1日(木)JR藤沢駅改札10時00分集合同刻出発。

当日6時25分のNHK天気予報降雨率50%以上の時は翌週8日(木)に順延します。

行程：「藤沢駅」→23榎本家→24白山神社→25砂山観音→26遊行橋一の鳥居跡→27高札場跡→28斉藤家→29問屋場→30柏屋脇本陣→31寺田家土蔵→32斉藤家と小川泰堂・大窪詩仏の墓→33笑宿庵跡の標柱→34稲元屋→35桔梗屋の店蔵→36内田商店→37和田家脇本陣跡→38蒔田家本陣跡→39問屋場→40定光寺→41関次商店の土蔵→42済美館→43荘厳寺→44永勝寺→45文具店・北村商店→46山王山跡→47真源寺→48上方見附跡→49三橋家→小田急藤沢本町駅→JR藤沢駅解散。

一口メモ

「Ⅷ」藤沢宿(日本橋から6つ目)第二十五回(東海道藤沢宿其の一)参照。

23・榎本家

江戸時代の米穀商土蔵造りの家であったが今を見えない、年貢米の米蔵がありこの辺りを蔵前と呼んでいた。

24・白山神社

25・砂山観音

寛永年間(1624~1643)の建立といわれ、この辺一帯は砂原だったと考えられ、小高い丘の上の観音堂は東海道を行き来する旅人の目を引いたに違いない。

金砂山安産子育観音石碑・青面金剛庚申塔安政4(1875)等数基の石造物・俗称帯解観音。

26・一の鳥居跡

遊行寺橋・袴石遊行寺宝物館入れ口に保管されている。

27・高札場跡

28・斉藤家

29・問屋場跡

30・柏屋脇本陣

31・寺田家土蔵

(稲元屋) 明治26年呉服問屋、明治天皇行在所

32・斉藤家小川泰堂(1814~1878)と妻の岳父大窪詩仏(1767~1837)の墓

泰堂は藤沢茅場に生まれ、江戸で医術を学び、大窪詩仏の娘と結婚。父天佑の他界で家業を継ぎ「医は仁術にして…貧富を問わず施療する」を信条に安政の大地震には江戸に出向き「無料診療券」を配ったという。明治期に現金元値市、土地繁栄社をおこす、など時代を先取りし藤沢の経済的发展に尽くした。大窪詩仏は江戸で儒学を学び江湖詩社に参加、江戸の四大詩家に挙げられ、数千人の弟子を抱えていたという。墓は明治10年胎動によって浅草光感寺から小川家墓地に会葬された。

33・笑宿庵跡の標柱

泰堂住居跡

34・稲元屋

寺田・明治26年呉服問屋、明治天皇行在所 土蔵。

35・桔梗屋の店蔵

明治35年建築・現在も営業。

36・内田商店

37・和田家脇本陣

38・蒔田本陣跡

享和3年(1803)当時、本陣1軒、脇本陣2軒、旅籠46軒、問屋場2ヶ所。本陣は宮家・公家・大名・の休泊施設、間口13間奥行19間。江戸初期は大久保町堀内家、後坂戸町蒔田家が明治3年まで約120年間要職にあった。総坪数400坪門構え・庭園など堂々たる家であったが現在は妙善寺にその墓域を残すのみ。

39・問屋場跡

40・常光寺

浄土宗、創立元龜3年(1572)本堂脇に庚申講中建立の庚申供養塔万治2年(1659)市指定文化財で浄土宗系のものは貴重である、又笠石庚申塔寛文9年(1699)がある。

墓地を取り巻く寺林は天然記念物に指定され、特に樹高25m樹齢300~400年の榎の木は巨樹です(神奈川銘木100選)。

彫刻家ノグチ弘(1904~1988)による父野口米次郎英文学者・詩人(1875~1947)の墓碑あり、

41・関次商店の土蔵

文庫蔵・石蔵。

42・済美館

藤沢公民館別館(トリ休憩)

43・莊嚴寺

真言宗・白玉山般若院・本尊、不動明王・境内に相模八十八箇所の第四番札所・弘法大師石仏・石蔵米穀肥料商の名残す・天保3年(1831)宥全和尚が新調した木製漆塗りの義経の位牌が本堂に安置されている、

表 源氏家紋 白旗大明神 神儀

裏 清和天皇十代御末源義経公御誕生平治元年乙卯歳文治5乙卯歳閏4月30日卒御歳37歳

崇 白旗大明神 天保3年辰歳法印宥全調往之

創立元暦元年(1184)開山は覚憲和尚、藤沢宿で最も古い寺院の一つです。嘉禎元年(1235)覚盛和尚中興再建、元文年間(1736~41)火災に遭い延享4年(1747)白旗神社東隣に移転再建して白旗・山王・八王子社の別当になる。幾度か水害に遭い明治8年神仏分離令により現在地に移る。過去帳に宿場の災害記録有り貴重な歴史資料である。

44・永勝寺

浄土真宗法谷山祥瑞院・本尊、阿弥陀如来・太子堂親鸞聖人作と言う聖徳太子像。開山は真海上人、創立は元禄4年(1691)親鸞聖人が鎌倉に来て北条の庇護を受け、常磐の里に一堂を営む、享禄年間(鎌倉の兵火により焼失、弟子の貞海法師がこの乱を避け藤沢の地に寺を移したのが始まりという。)

旅籠屋を営んでいた小松屋源蔵の墓を囲むように39基の飯盛り女の墓がそっそりと立ち並んで居ます。小松屋のように墓を建てて葬るのは大変珍しいことで。墓碑にはそれぞれ戒名を記し施主小松屋源長の文字が刻まれています。抱え主源長の心根の優しさが伝わってきます。天保6年(1853)当時大鋸から遊行寺橋に懸けて27~8軒の飯盛女(私娼でもある、旅籠1軒/2人・全盛期には1軒/数人全体で100人近いとも)を抱えた飯盛旅籠があった。

45・文具店北村商会

店の奥に土蔵の入り口の大きな扉・並びに曰居勉強堂・小林商店裏手に石蔵。

46・山王社跡

山王山と呼ばれ江戸時代山王神社があった。藤沢宿鎮守・大国主命、末社に稻荷、金比羅、三峯の三社があった。明治40年整理統合された、祭神は白旗神社に合祭。跡地は大正末期町立実科女学校となり、今の藤沢高校の前身である、藤沢高校入り口の石段は山王神社の石段である。

47・真源寺

浄土宗風早山・本尊、阿弥陀如来・三橋家檀家・無縁塔=通称万霊供養塔(参道登り本堂左手)・開山は願養秀政・天和元年(1681)と伝える。文政3年(1820)台町、白旗横町を全焼する大火で、本尊・過去帳など焼失。相模国準四国88ヶ所68番と65番の大師像が現存、本堂に安置。左に藤沢山33世締如上人の石塔、六字名号「南無阿弥陀仏」とある。時宗の石碑あり奇異に感ずる方もいるが、藤沢も斎場にある供養塔と同じ意味。無縁塔は寛政9年(1797)建立。三橋家は江戸末期の江川代官に信頼され宿場内外の治安に努めた三橋善太郎がよく知られている。

48・上方見附跡

真源寺を出た筋向かいにあったようだ、今は跡形もなく、案内板もないので推定です。

49・三橋家

明治天皇行在所跡・郵便局隣の三橋ビル一階通路に説明版あり、天皇行幸時のに立ち寄られた。

50・伊勢山公園 (今回割愛します)

第二十六回行程案内図

